
悪夢の迷宮

つづみー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悪夢の迷宮

【Nコード】

N2607U

【作者名】

つぶみー

【あらすじ】

暗い闇の中、そこは“悪夢の迷宮”とよばれていた。

そこには魑魅魍魎が蔓延り、決して誰も近づこうとしない。

しかし、そこにはまだ誰も見たことがない究極の秘宝があるらしく、世界中の盗賊やトレジャーハンターを奮わせたいた。

・・・そんな中、氷忌という少年がこの迷宮をさまよっていた。

彼は記憶喪失に陥り、自分が誰なのかもわからないまま、ここで化

け物から逃げ続けていた。

そんなあるとき、氷忌は迷宮の中の謎の小部屋で蒼い宝石を見つける……

第0話

「・・・っはあ・・・っはあ・・・」

暗い闇の中。

繰り返される吐息は、まるで何かから逃れるかのように駆け抜けていく。

・・・いや、事実逃げているのだ。

「くそっ・・・どっしっっ・・・!」

少年は自分の持てる力を出し切って走る。

後ろを見ている暇もない。

もうすぐ後ろに、化け物は迫っているのだから。

「・・・あっ!？」

一直線の先に、ひとつの扉。

怪しい雰囲気だったが他に逃げ込めるような場所もなく、少年は迷いなく扉を開けて飛び込んだ。

化け物が侵入してくる前に、大慌てで扉を閉める。

荒々しい扉の閉まる音。

それと同時に迫っていた邪気は少し薄らいだような感覚がして、少年はため息をついた。

それと同時に走った疲れが出たのか、その場に崩れ落ちるように倒れこみ、眠りについた。

・・・彼の名前はアキラ ヒョウキ亜倉 氷忌。

彼は、この迷宮をさまよい、迫りくる魑魅魍魎から逃れ続けていた。

自分が、己の過去も、なぜここにいるのか知らずに。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2607u/>

悪夢の迷宮

2011年6月21日21時34分発行